

## VLT basalt 隕石の局所 U-Pb 年代分析に基づく未探査領域の絶対年代学の可能性

## Chronology of unexplored region on the Moon based on the in-situ U-Pb dating of lunar VLT basaltic breccia

# 寺田 健太郎 [1]; 佐野 有司 [2]

# Kentaro Terada[1]; Yuji Sano[2]

[1] 広大・理・地球惑星; [2] 東大・海洋研

[1] Earth and Planetary Systems, Hiroshima Univ.; [2] Ocean Res. Inst. Univ. Tokyo

<http://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp/~geochem/geochem.html>

月の「海」の玄武岩は、アポロ&ルナ計画で採取された岩石試料の分析結果を元に High-Ti, Low-Ti, Very-Low-Ti の 3 つのグループに分けられている。中でも Very-Low-Ti 玄武岩 (以下、VLT 玄武岩) は、アポロ 17 号とルナ 24 号試料のごく一部でしか見つかっておらず、その熱史についてはよく知られていない。一方、月より飛来する隕石では、この VLT 玄武岩に分類される隕石が比較的良好に見つかっているものの、これらの殆どが「高地」と「海」起源の多種混合角礫岩であるため、形成年代に関する比較 / 議論はこれまで困難とされてきた。本研究では、高感度 2 次イオン質量分析計 SHRIMP の空間分解能を活かした、VLT 隕石中の「海」起源リン酸塩鉱物の局所 U-Pb 年代の最新の結果について紹介する。またリモートセンシングによる global mapping データと比較することにより、未探査領域の絶対年代学の可能性について議論する。